

平成22年度財団法人JKA補助事業報告

補助事業番号 22-35

補助事業名 平成22年度産業デザイン広報活動等補助事業

補助事業者名 財団法人日本産業デザイン振興会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

デザイン振興の意味合いは、近年良いモノを作り、デザイナーの育成を行うという段階から抜け出し、モノが作り出される背景・シナリオに基づく企画・製造・販売・評価に至るまでのプロセス全体が振興を意味するところに定着してきております。

グローバル化により特に近隣のアジア各国との国際競争を強いられているわが国産業界の構造を考えると、相対的に高いコスト（人件費・原材料費等）・価格に見合う「価値ある製品」を作り出すことが望まれている点はことさらに重要なポイントとなってきました。当財団においてはデザイン振興を通じて、この「価格に見合った価値ある製品作り」の実現により直接・間接的に機械工業の需要拡大をはかり、中小企業の振興・地域経済の活性化に貢献することが大きな目標となっております。

一方、デザインに対する産業界の取組みの積極さは増進して平成22年度のグッドデザイン賞（Gマーク）の応募数は、3,136点となり、不況にめげることのないデザインに対する企業の前向きな姿勢を感じ取ることができます。また、4年目を向えたギャラリースペースの運営やリエゾンセンターにおける人材育成の取り組みを中心として産業界、教育界等との連携のもと、展示会・セミナー等々を通じてデザイン活用の有効性をPRし普及に努めることも重要な位置付としてとらえております。

海外に対するデザイン振興については、アジア地域を中心としてデザイン振興拡大を図るべく、情報収集の実施や基礎地盤固め等々始めの一步を踏み出すべく着々と準備を進めております。当年度においては香港BODWIに主催国の中心的役割で参加したほか、タイ王国のDE賞（デザインエクセレンス賞）、インドのiマーク等の設立を含めた連携活動を実施してまさにその足がかりを構築中であり、国際化推進をますます増進します。

① デザイン振興プラザ事業

東京ミッドタウン・タワー棟5階の一部をデザイン振興プラザとして借用し、先端デザインの発信や世界におけるデザインの現状紹介など多種多様なデザイン情報の収集・発信拠点として活用いたしました。このスペースを利用して各回毎にテーマを設けた11回の企画展（内、財団法人JKA補助4回）を実施し来場者数も7万人を達成し、国内外のデザイン情報を広くPRすることができました。とりわけ、今年度は第二段階を見据えてタイ王国のデザイン展を開催し各方面からの注目を集めました。

また、今年度も「デザインハブ企画展」に新たな層の集客を計画し実施しました、その結果多くの来場者とメディアへの露出の増加で当初目的を達成することができました。

② 高度デザイン専門家育成事業

東京ミッドタウンの一角に「知の拠点」としてリエゾンセンターを設け、国内の教育機関4校、海外の教育機関11団体と国内企業の共同研究、各種セミナーの開催（11回実施）のための「場」の提供と実施のためのサポートを行いました。また例年と同様に海外連携各機関を中心とし、参加者数約100名規模で実施した国際シンポジウムを開催（1回）いたしました。

今年度は、前年より事業強化を図った能力開発研究会の継続及び一層の充実、スキルスタンダードの研究の集大成となる「産業分野スキルスタンダード」の公開等々、意欲的に新たな展開の試みを実施し、産業の持続的発展に貢献しました。また、リエゾンセンターの活動を更に周知させる意味合いから広報Webサイトの充実にも努めました。

③ フロンティアデザイン等の活用・推進事業

「デザインイニシアティブな方法」（製品等の将来的なあり方をデザインで率先し、賛同を得て開発の方針を進める等）の普及のため、産業界各社・デザイン系大学の融合による企画展「デザインコミュニケーション」を開催いたしました。この企画展は東京ビッグサイトにて2010年8月27日から3日間開催したグッドデザインエキスポ（略称GDE）に併設された特別企画展として実施し、来場者数は44,300人（GDE入場者数）を数えました。

今年度は、「近未来の商品のデザイン提案」等グッドデザイン賞におけるフロンティアデザイン領域との融合を図り来場者のみでなく各種メディア等への露出もあり、学生と企業のマッチング効果も大きく期待できる内容となりました。

2. 予想される事業実施効果

① デザイン振興プラザ事業

このプラザ・スペースを有効活用することによって国内外の良質デザインの多角的・多面的な広報・発信を行い産業デザインにインパクトを与え続けることができます。また企業、デザイナー、教育機関等広範囲にわたるデザイン関連の情報収集・発信を行い産業デザインのレベルアップを強力に推し進めることができます。

今年度より実施した海外連携のデザイン展は事業実施の第二段階への足がかりとなり、今年度においては国内における海外展に加えて海外で実施する日本のデザイン展を実施する等々着実に準備が進行しております。

② 高度デザイン専門家育成事業

国際的に著名な国内外のデザイン研究機関や国内企業、デザイン系学生の連携によって開催された国際シンポジウムや各種セミナー、これを紹介した当財団HPは広く

発信され、参加者はもとより企業をはじめとする関係各所の注目をあつめました。これらを契機として海外研究機関への留学や新たな産学協同プロジェクトの発生等々すでに新しい展開も芽生え、グローバルな高度デザイン専門教育の中心的機能としての役割は確実に増進しております。

また、一昨年度に開始したスキルスタンダードの研究は最終のまとめをみて「産業分野スキルスタンダード」を公開しました、今後の活用が期待されるところです。能力開発研究会等の事業活動は好評価を得て継続して開催いたしました。有力研究機関の参加団体数も内外合わせて11団体となり事業拡大・国際化増進の一助となることが期待されます。

③ フロンティアデザイン等活用・推進事業

特別企画展「デザインコミュニケーション」の開催に対する出展はデザイン先進企業11社、デザイン系大学4校と公益法人1団体の計16団体の参加をみました。内容もより高度となり来場者・報道機関の注目を集めました。産学共同の「場」を提供することにより、学生に作品発表の機会を与え、企業と学生のマッチングサポートを行うことによって学生、産業界ともに今後の充実した展開につながってゆくことが見込まれます。特に、近未来デザインへ(＝フロンティアデザイン)の関心度は企業・学生ともに高くマッチングの好機会となることが容易に見通せます。

3. 本事業により作成した印刷物等

国際シンポジウム パンフレット。

4. 事業内容についての問い合わせ

団体名 : 財団法人日本産業デザイン振興会 (ザイダンホウジン ニホンサンギョウデザインシンコウカイ)

住所 : 107-6205
東京都港区赤坂9-7-1ミッドタウン・タワー5階

代表者名 : 理事長 飯塚 和憲 (イイツカ カズノリ)

担当部署 : 総務部 (ソウムブ)

担当者名 : 次長 若木 潔 (ワカキ キヨシ)

電話番号 : 03-6743-3772

FAX番号 : 03-6743-3775

E-mail : wakaki@jidpo.or.jp

URL : <http://www.jidpo.or.jp>